

仮定法 標準

空欄に適する語句を選びなさい。

- [] she need any help, she could contact either of us anytime.

(大妻女子大)

- ① If [校正用: false]
- ② Should [校正用: true]
- ③ When [校正用: false]
- ④ Would [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「助けが必要ならば、彼女はいつでも私たちのどちらに連絡するといいただろう。」

後半のcould contactに注目。本問は、if S should [were to] do 「(仮に) Sが～するとすれば〔～することがあるとしても〕」を使った文。この表現は、未来のことについて実現しそうにない仮定を表すときに使う。さらに、本問では、仮定法の接続詞ifを省略されて、if節の語順が**倒置形**（疑問文の語順）になっていることに注意。

なお、if節が主節の後ろにある場合でもifを省略することができるが、非常に読みとりづらいので戸惑わないようにしておこう。

She could contact either of us anytime should she need any help.

空欄に適する語句を選びなさい。

- My mother woke up at six, [] I could not have caught the first train.

(近畿大)

- ① as if [校正用: false]
- ② but for [校正用: false]
- ③ I wish [校正用: false]
- ④ otherwise [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「母は6時に起きたのだが、もしそうでなければ私は始発に乗れなかっただろう。」

〈S V（直説法）, **otherwise** S' V'（仮定法）〉という形で、前文の内容に反する仮定を表して **otherwise** 「もしそうでなければ～」ということが出来る。**otherwise**の前文はコンマ以外に、セミコロン（;）やピリオドで区切ることもある。ifを使わずに仮定法を表す表現として覚えておこう。なお、本問をif節で表せば、次のようになる。

If my mother hadn't woken up at six, I could not have caught the first train.（母が6時に起きていなかったら、私は始発列車に乗れなかっただろう。）

空欄に適する語句を選びなさい。

- 彼はまるで王様のように振る舞うことがある。

He sometimes behaves [] he were a king.

（成城大）

- ① provided [校正用: false]
- ② in the way [校正用: false]
- ③ as if [校正用: true]
- ④ should [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

〈 **as if** + **仮定法過去** 〉で「まるで～であるかのよう...」という意味。仮定法過去を使うので、**as if**のあとの動詞が **過去形** になっていることを確認しておこう。

なお、仮定法過去は時制を一致させる必要がないので、本問が過去の文になっても**as if**のあとの形は変わらない。

He sometimes behaved as if he were a king.（彼はまるで王様のように振る舞うことがあった。）

このように、behaves[behaved]という行為と **同時の内容** であれば、**仮定法過去** を使うことを押さえておこう。一方、behaves[behaved]という行為よりも **過去の内容** 「まるで（昔は）王様であったかのように」という場合は、**仮定法過去完了** で表す。

He sometimes behaves [behaved] as if he had been a king.（彼はまるで王様であったかのように振る舞

うことがある〔あった〕。)

① **provided** S V 「もし～ならば、～という条件で」は文意に合わない。② **in the way** S V 「～するやり方で」は、ふつう後ろにつづくのは直説法。④ **should**はifの省略と考えた場合、if節の語順が倒置してwere he a kingとなるし、そもそも文意が通らない。

空欄に適する語句を選びなさい。

- Human beings could not survive if it were not [] water.

(南山大)

- ① any [校正用: false]
- ② for [校正用: true]
- ③ of [校正用: false]
- ④ without [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「人間は水なしでは生きられないだろう。」
仮定法を使った慣用表現if **it were not for** ～「もし～が（今）なければ」を使った文。本問では、if節が文の後半にきている。

なお、この表現は **without**、**but for** を使って言い換えることができる。

Human beings could not survive if it were not for water.

= Human beings could not survive without water.

= Human beings could not survive but for water.

空欄に適する語句を選びなさい。

- That attraction is only for children over age 12. [] I were a couple of years older!

(-)

- ① But for [校正用: false]
- ② Now that [校正用: false]
- ③ If only [校正用: true]
- ④ Even though [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「あのアトラクションは12歳以上の子どもしか乗れない。あと2～3年、ぼくが歳をとってさえいればなあ。」

〈if **only** + 仮定法〉は「ただ～であればいいのに」という現在や過去の現実と反する願望を表す表現。〈I wish + 仮定法〉よりも **強い願望** を表すことができる。

- ① **But for** ～ 「～がなければ」 →あとにつづくのは（代）名詞
- ② **now that** S V 「今や～なので」
- ④ **even though** S V 「たとえ～でも／～にもかかわらず」

空欄に適する語句を選びなさい。

- [] you were coming, I would have cleaned my room.

（立命館大）

- ① Did I know [校正用: false]
- ② Had I known [校正用: true]
- ③ If I know [校正用: false]
- ④ When I knew [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「あなたがくるとわかっていたら、部屋を掃除しておいたのに。」

主節のwould have cleanedに注目。**過去の現実と反する仮定**を表すときは、**仮定法過去完了**「もし～だったら、...しただろう（に）」を使う。if節の動詞を過去完了で、主節の動詞を〈助動詞の過去形＋完了形〉で表すのがポイント。

If S **had done** ～, S' **would** [**could** / **might** / **should**] **have done** ...

本問は、さらに仮定法の接続詞ifを省略されて、if節の語順が **倒置形**（疑問文の語順）になっていることに注意しよう。

空欄に適する語句を選びなさい。

- [] her help, we would never have finished this project on time.

(群馬大)

- ① Accepted [校正用: false]
- ② Not for [校正用: false]
- ③ Excluding [校正用: false]
- ④ Without [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「彼女の助けがなかったら、私たちは決して時間どおりにこのプロジェクトを終えなかっただろう。」

仮定法を使った慣用表現if it had not been for ～「もし～が（あのとき）なかったら」は、without、but for を使って言い換えることができる。

If it had not been for her help, ...

= Without her help, ...

= But for her help, ...

なお、without ～ とbut for ～ は句の形になるので動詞の時制を気にすることなく、後ろに仮定法過去・仮定法過去完了のどちらでもつづけることができる。

on time 「時間どおりに／期限内に」

空欄に適する語句を選びなさい。

- I would rather [] to the party without me.

(－)

- ① you won't go [校正用: false]
- ② you not to go [校正用: false]
- ③ you hadn't gone [校正用: true]
- ④ for you not to go [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「私がいらないパーティに行ってもほしくなかったのですが。」

〈would rather (that) + 仮定法〉は **現在や過去の現実に反する願望** を表す表現で、相手に丁寧に依頼するときによく使われる。なお、このthatは省略されることが多い。

- ・ S **would rather** (that) S' **did** ～ 「S'が～してほしいのですが（とSは思う）」
- ・ S **would rather** (that) S' **had done** ～ 「S'が～してほしかったのですが（とSは思う）」

空欄に適する語句を選びなさい。

- [] the map, they could not have found the way.

(-)

- ① But for [校正用: true]
- ② The same as [校正用: false]
- ③ Out of [校正用: false]
- ④ Just only [校正用: false]

解答：①

【設問の解説】

「地図がなかったら、彼らは道を見つけられなかっただろう。」

仮定法を使った慣用表現if **it had not been for** ～ 「もし～が（あのとき）なかったら」は、**without**、**but for** を使って言い換えることができる。

If it had not been for the map, ...

= Without the map, ...

= But for the map, ...

なお、without ～ とbut for ～ は句の形になるので動詞の時制を気にすることなく、後ろに仮定法過去・仮定法過去完了のどちらでもつづけることができる。

空欄に適する語句を選びなさい。

- It's [] time you started thinking about saving for your old age.

(-)

- ① long [校正用: false]
- ② large [校正用: false]
- ③ tall [校正用: false]
- ④ high [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「もうとつくに老後の備えについて考えはじめるころだ。」

「もう～する時間〔ころ〕だ」は〈It is time + 仮定法過去〉で表す。仮定法過去を使うので、It is timeのあとの動詞は過去形にするのがポイント。

It is time S did ～ 「もうSは～する時間〔ころ〕だ」

本問のように、timeの前にaboutやhighをつけて表現することもある。

It is about time S did ～ 「もう **そろそろ** Sは～する時間〔ころ〕だ」

It is high time S did ～ 「もう **とつくに** Sは～する時間〔ころ〕だ」

ここに参考書リンクが入ります